

紫漣会だより 第13号

令和6年1月発行
京都教育大学大学院
連合教職実践研究科
「紫漣会」

紫漣会会員のみなさま
教育関係者のみなさま

大寒の候 みなさまいかがお過ごしでしょうか。

1月1日に能登半島地震が発生しました。震災でなくなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。

少子化や教員不足から様々な改革が進められようとしています。学校現場は改革の成果を待てられない深刻な状況です。そうした現状と向き合いながら、子どもたちの健やかな成長と少しでも明るい未来に近づくことを願って、ともに学び合い、着実に実践を重ねていきたいものです。さて、紫漣会だより第13号を送付いたします。どうぞよろしくお願いたします。

〈第13号の内容〉

- ◇ 紫漣会 市村淳子会長 ご挨拶
- ◇ 学校臨床力高度化系 笠沙知章系主任 ご挨拶
- ◇ 令和5年8月11日（金）紫漣会総会並びに教育研究会の報告
- ◇ 令和5年度「院生・修了生研究支援事業」研究テーマ等について
- ◇ 院生・教員連絡協議会活動報告
- ◇ 2023年度実践報告フォーラムのご案内
- ◇ メールアドレス登録のお願い ※電子メールでの連絡体制に切り替えさせていただくことから、未登録の方はご協力をお願いいたします。

「紫漣会」は、京都教育大学大学院連合教職実践研究科に籍を置いた者の集まりです。同窓院生の親睦交流を図るとともに会員の知徳涵養を図り、我が国の教育の発展に寄与することを目的に、平成21年度修了式を機に準備を進め、平成23年度に設立されました。現在、8月の紫漣会総会・教育研究会、院生・修了生研究支援事業を中心に活動を行っています。紫漣会は、学校現場で活躍されている修了生のみなさんと大学院生、教員とが交流し研究協議を行う場となるよう、修了生のみなさんとのネットワークを大切に考えております。教育現場でご活躍の実践やご提案をぜひお寄せください。よろしくお願いたします。

紫漣会庶務 佐古 清 〒612-8522 京都市伏見区深草藤森町1

E-mail: sako405@kyokyo-u.ac.jp

紫漣会だより

13号
No.1

ご挨拶

紫漣会 会長 市村 淳子

この度の能登半島地震で被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

新年を迎えました。日頃より「紫漣会」（京都教育大学大学院連合教職実践研究科同窓会）の活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。今年も宜しくお願い申し上げます。

さて、年末・年始に次々に起こる出来事を目の当たりにし、複雑な気持ちで新年をスタートされていることと思います。改めて、これからの教育の在り方を問い直す時期にあることを強く実感されている方も多いのではないのでしょうか。VUCAと言われる時代を生き抜くために必要な力は何なのか。目の前で起こる事実を持って感じられていることと思います。

先日、PISA2022の調査結果が公表されましたが、シンガポールの存在が目立ちました。この数年間、シンガポールでは、国の方針転換により、学校教育と企業研修の分野で大きな変革を遂げているそうです。暗記や指示に従う力はAIに任せるべきことと強く考え、教育の重点は「反復的スキリング」から「創造的スキリング」へと大きくシフトしています。教員研修も、ファシリテーション能力とICT活用能力の向上へ明確に舵が切られています。また、中学校では定期テストの廃止が法律で定められるなど、日本では想像ができないレベルで教育改革が行われていると理解できます。

現在、日本においても、リテラシーとコンピテンシーの両輪による「生きる力」の育成に取り組んでいます。しかし、コンピテンシーについては十分な理解や研究が進んでいるとは言えません。そのコンピテンシーについて山口周は次のように述べています。

「コンピテンシーには発揮のレベルがあります。「誠実性」に関して言えば、与えられた規則やルールに実直に従うというのは、低いレベルの発揮でしかありません。(中略)「誠実性」のコンピテンシーを高いレベルで発揮している人は、外部から与えられたルールや規則だけではなく、自分の中にある基準に照らして、難しい判断をしています。」

(光文社新書『世界のエリートはなぜ「美意識」を鍛えるのか？経営における「アート」と「サイエンス」』より)

子供たちが幸せな人生を生きるために、私たちは、「高次」のコンピテンシーの育成を目指すこととなります。これからの教育の在り方やそれに伴う教師教育について、皆様と共に研究と修養を積み重ね、豊かで魅力ある教職人生を築けるよう紫漣会の活動を広げていきたいと考えています。

皆様方にとって今年一年が実りある年になりますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

紫漣会だより

13号
No. 2

ご挨拶

京都教育大学大学院連合教職実践研究科
学校臨床力高度化系主任 竺沙 知章

新しい年となりました。いかがお過ごしでしょうか。今年は、お正月から大震災、飛行機事故などが起こり、心を痛める年の初めになってしまいました。被害にあわれた方々のご冥福をお祈りし、お見舞を申し上げるとともに、被災地の復興を願わずにはられません。

さて、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、ようやく制限のない生活が戻ってきました。心身ともに心なしか軽くなったような気がしております。しかし、コロナ危機の3年間を振り返ってみると、それ以前と何かが変わっていると漠然と感じているのではないのでしょうか。今、そのようなことをじっくりと考えるべき時かもしれません。

ノンフィクション作家で探検家の角幡唯介氏は、探検とは「人間社会のシステムの外側に出る活動」（『極夜行』文藝春秋、2018年）と言っています。彼は、極夜の時期にグリーンランドにおいて、犬橇での単独の探検を行っています。それは、4か月の極夜の経験の後に、真の太陽を見ることができないのではないか、そのような意図を持った探検でした。さらに彼は、極夜の探検後には狩りを通じた漂泊と言える探検を行うようになっていきます（『狩りの思考法』清水弘文堂書房、2021年）。狩りは、計画的にできるものではなく、常に現実に左右されます。未来予期、計画ができない状況は、実は、本来の現実です。大震災に直面するとそのことを思い知らされます。新型のウイルス感染症が蔓延すると人間の力ではコントロールできない自然の現実を経験することになります。非常事態宣言が出された2020年3月、グリーンランドで犬橇単独行をしていた彼は、日本にいる家族から電話で「あなたは今、世界で一番安全な場所にいる」と言われたそうです。本来の現実、真の自然が露わになっていたのがコロナ危機の3年間だったのかもしれませんが。私たちは、文明化、近代化とともに見ないようにしてきた現実、自然に、たとえ不安な気持ちになろうとも、しっかりと向き合うことが必要なように思います。皆さんと共にじっくりと考えていきたいと思っています。



「令和5年度 紫漣会総会並びに教育研究会」報告

日 時 令和5年8月11日（木・祝）13時～16時

<紫漣会総会> 13時～

▶ 事業報告・事業計画、役員、決算・予算、院生研究支援事業対象研究発表

<教育研究会> 14時～

▶ 講演 京都府宇治児童相談所 相談課長 安邨^{やすむら} 啓子 氏

「児童相談所の実際 & 児相から学校への期待」

▶ グループに分かれてのディスカッション

▶ 全体討議

「令和5年度 紫漣会院生・修了生研究支援事業」

研究テーマ

「学習者の学力差が特別の教科「道徳」における協働学習に及ぼす影響」

これまで、道徳教育が他教科と比べて軽んじられてきたことや、子どもの規範意識が変化してきたことを背景に、2018年、19年度から道徳教育が教科として指導されるようになった。様々な場面で道徳の重要性が謳われているが、教員の道徳教育における理念への理解は不十分で、効果的な指導方法も共有されておらず、様々な手法が試されている状況である。中でもペアやグループでの学習は、多くの意見や考えに触れられるため重要な手段とされているが、グループで学習する際、子どもたちの学力差が道徳的価値観の形成に影響を与えることはないだろうか。他教科の学習では、学力が高いと見られている子どもがグループ内の議論の主導権を握ってしまうことがある。それと同様に、道徳という唯一無二の解がなく、子どもたちの自由な発想と考えを仲間と交流できる教科でも、学力差が意見交流の豊かさに負の影響を与える可能性はあるのではないだろうか。もしそうした実態が明らかになれば、道徳におけるグループ学習のあり方を再考しなければならないだろう。本研究では、生徒の学力が特別の教科「道徳」における協働学習に影響を与えるのかについて、実際の授業を通して得られたデータを質的観点から分析することによって検討する。

研究申請者：初任期教員養成コース

稲葉 絢、上林 良、安見 理沙

2023 年度院生・教員連絡協議会活動報告

学校臨床力高度化系
院生・教員連絡協議会
院生代表 川崎 智史

院生・教員連絡協議会は、平成 24 年度に発足された連合教職実践研究科学学校臨床力高度化系のカリキュラム改善や学習環境の向上を目的とした院生と教員による組織です。今年度より完全に新カリキュラムへと移行しました。それにもとない本会は、初任期教員養成コース M1、M2 より各 2 名、中核教員・リーダー教員養成コースより現職院生 2 名を選出し、計 6 名の院生委員と 3 名の教員で活動しています。

今年度の院生・教員連絡協議会では、主題を「縦と横のつながり」と設定しました。これは昨年度の振り返りや反省を踏まえて決定したものです。改組を期に院生間の交流がより深まることを期待して学年別、コース別の自習室を撤廃しましたが、コース別の棲み分けができてしまったり、他学年の院生がいる部屋には入りにくいといった声があったりしました。また、そもそも他学年や他のコースの院生と関わる機会が少なく、名前や顔も十分にわかっていないという現状がありました。そこで今年度は、校内で出会った際に誰とでも交流が起こることを願い、このような主題を設定して取り組みを進めてきました。

昨年度まで猛威を振っていた新型コロナウイルス感染症による制限がほぼ解除され、今年度は協議会や院生交流集会などを完全対面で実施することができました。まず、5月に院生交流集会を対面で実施し、ほぼ全員の院生が集まりました。年度当初でしたので、顔合わせも兼ねて自己紹介を含めたグループ交流を中心に行い、院生同士で親睦を深めました。この活動は、本協議会の主題を具現化したものであるとともに、新型コロナウイルス感染症により中断を余儀なくされていた行事の復活という意味合いがあります。

また、院生から要望が挙がっていた SPSS の導入が完了しました。それに関して、校内のどこのパソコンに導入するのか、どのような決まりで使用するのかなどについても協議会で議論したところです。もう一つ課題として、これまでは使用可能な備品はあるものの、その実態が十分にわかっていない状況がありました。

そこで今年度は、備品の種類や数、置き場など一覧としてまとめました。その上で、各コースの院生へ備品リストを送付し、使用したい備品を募り、使いやすいように置き場を移動したりもしました。さらには備品庫が電子ロックとなり、いつでも院生が利用可能になりました。

今年度は協議会主催の行事について、年度当初に構想していたほど活発に行うことはできませんでしたが、新カリキュラムのもと有意義な活動が行えたのではないかと考えています。

今後も大学院のカリキュラム・学びを

よりよきものにするため、協議会の活性化に努めていきたいと考えております。



第 1 回交流集会の様子

令和6年1月

紫漣会会員のみなさんへ

京都教育大学大学院
連合教職実践研究科紫漣会

メールアドレス登録のお願い

日頃から紫漣会の活動にご理解・ご支援をいただき、ありがとうございます。

これまで、本会の活動報告や紫漣会だよりその他のお知らせについて、文書の郵送により対応してきましたが、近年、宛先不明による返信が増加したことに加え、毎年修了生が増えていくことにより、郵送費用増大と発送にかかる労力に諸課題がありました。

これらを改善するため、今後、郵送ではなく電子メールでの連絡体制に切り替えさせていただきます。

つきましては、趣旨をご理解いただき、メールアドレスの登録にご協力をお願いいたします。

【登録方法】

登録は Google フォームにて受け付けます。

登録 URL : <https://forms.gle/GF4PSKiDiYx9FJp97>

QRコード



京都連合教職大学院 (京都教育大学大学院連合教職実践研究科)

〈2023年度実践報告フォーラム〉

「生徒指導提要」改訂を どのように受け止めるのか

参加無料

生徒指導に関する学校・教職員向けの基本書である『生徒指導提要』が12年ぶりに改訂され、2022年12月に公表されました。今回の改訂は、児童生徒の発達を支える生徒指導の側面（発達支持的生徒指導）に着目し、指導に当たっての基本的な考え方や留意すべき事項等についても示しています。また、校則の見直しなどを含め、児童生徒が参画して意見表明する機会を設けることを明示するなど、児童生徒の権利擁護という側面をふまえた内容ともなっています。

今回の『生徒指導提要』の改訂を、われわれはどのように受け止めるべきか、今後、児童生徒とどのように向き合っていくことが必要となるのかについて議論し、今後の生徒指導のあり方を考える機会といたします。

主催：京都教育大学大学院連合教職実践研究科（京都連合教職大学院）

〔基幹大学〕京都教育大学

〔連合参加大学〕京都光華女子大学／京都産業大学／京都女子大学

京都橘大学／京都ノートルダム女子大学／同志社大学

同志社女子大学／佛光大学／龍谷大学

〔連携教育委員会〕京都府教育委員会／京都市教育委員会

日時 2024年 **2月11日** (日・祝)
10:30～17:00(受付開始/10:00)

場所 **キャンパスプラザ京都**
4階 第2講義室
京都市下京区西洞院通塩小路下る

プログラム

●2023年度実践報告 10:30～12:00

○開式 ○活動報告 ○各系からの報告

●講演 13:30～14:30

『生徒指導提要（改訂版）』が示す
これからの生徒指導の方向性と課題

○講師
新井 肇 関西外国語大学 教授

●シンポジウム 14:45～16:45

『生徒指導提要』改訂をどのように受け止めるのか

○シンポジスト
安達知郎 連合教職実践研究科 准教授
連合教職実践研究科学校臨床力高度化系 大学院生
連合教職実践研究科教科研究開発高度化系 大学院生
新井 肇 関西外国語大学 教授
○ファシリテーター
片山紀子 連合教職実践研究科 教授

お問い合わせ

京都教育大学総務・企画課教職大学院グループ

〔TEL〕075-644-8108 〔e-mail〕renforum@kyokyo-u.ac.jp

参加の申込みにつきましては、裏面をご参照ください。

京都連合教職大学院 (京都教育大学大学院連合教職実践研究科)

〈2023年度実践報告フォーラム〉

「生徒指導提要」改訂をどのように受け止めるのか

- 本フォーラムは、どなたでも参加できます。参加費は無料です。
- 参加ご希望の方は、下記のお申込方法によりお申込みください。締切までにお申込みがない場合でも当日参加可能ですが、会場の準備の都合上、できましたら事前のお申込みをお願いします。

お申込方法

右記QRコードまたは下記URLから申込フォームにアクセスいただき、お申し込みください。

【申込締切:2024年2月1日(木)】

<https://forms.gle/AKvxH6RoUajn9Mdc8>

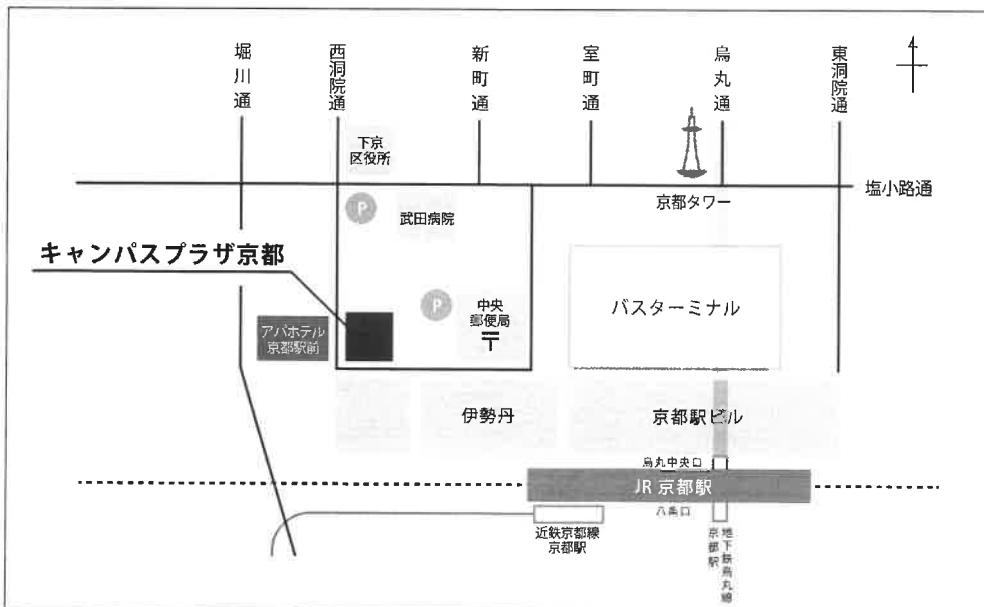
※お申込の際にご提供いただきました個人情報は、本フォーラムの運営に関して必要な場合のみ利用します。また、ご本人の同意を得ずに、個人情報を第三者に提供することはありません。



お問い合わせ先

京都教育大学 総務・企画課 教職大学院グループ
[e-mail] renforum@kyokyo-u.ac.jp

会場案内



〒600-8216
京都市下京区西洞院通塩小路下る
キャンパスプラザ京都
(JR 京都駅ビル駐車場西側)